

河川モニタリング調査実施計画（全体計画）（案）

かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画

11 水環境モニタリング調査の実施

河川のモニタリング調査

河川の流域における動植物等調査	相模川、酒匂川水系において、動物、鳥類、水生植物等を調査する。
河川水質の多様な指標による評価	県民参加のもとで利用目的等に応じた多様な指標を選定し調査する。

1 調査の目的

河川水質のモニタリングについては、従来から調査されているBOD（生物化学的酸素要求量）等の水質環境基準項目だけでは県民に分かりにくい等の課題があるため、動植物やその他の多様な指標をもとに河川を調査するとともに、森林の管理状況などと密接に関連する河川水の窒素、SS（浮遊物質）などの水質項目についても調査し、水源環境保全・再生に係る施策の評価や将来の施策展開の方向性について検討の基礎資料とする。また、これらの収集した時系列データを解析することにより経年変化を把握する。

本調査は、マクロな視点で河川環境を把握していくことにあり、個々の河川対策の実施効果を検証するための調査については、それぞれの事業等で実施するものとする。

2 調査対象河川

相模川及び酒匂川

3 調査の概要

（1）河川の流域における動植物等調査

ア 基本的な考え方

研究機関（または専門業者）への委託により、水生生物等動植物や、窒素、SSなどの水質項目について定点観測する。

具体的には、平成19～23年度の5か年の間に、第1回目の現地調査を実施して現状の把握と解析を行い、以後5年に1回程度の間隔で現地調査を行い、その経年変化を把握することを想定して取り組む。

また、過去に実施された調査のデータベース化をはかり、過去の状況からの変化についても把握・解析を行うこととする。

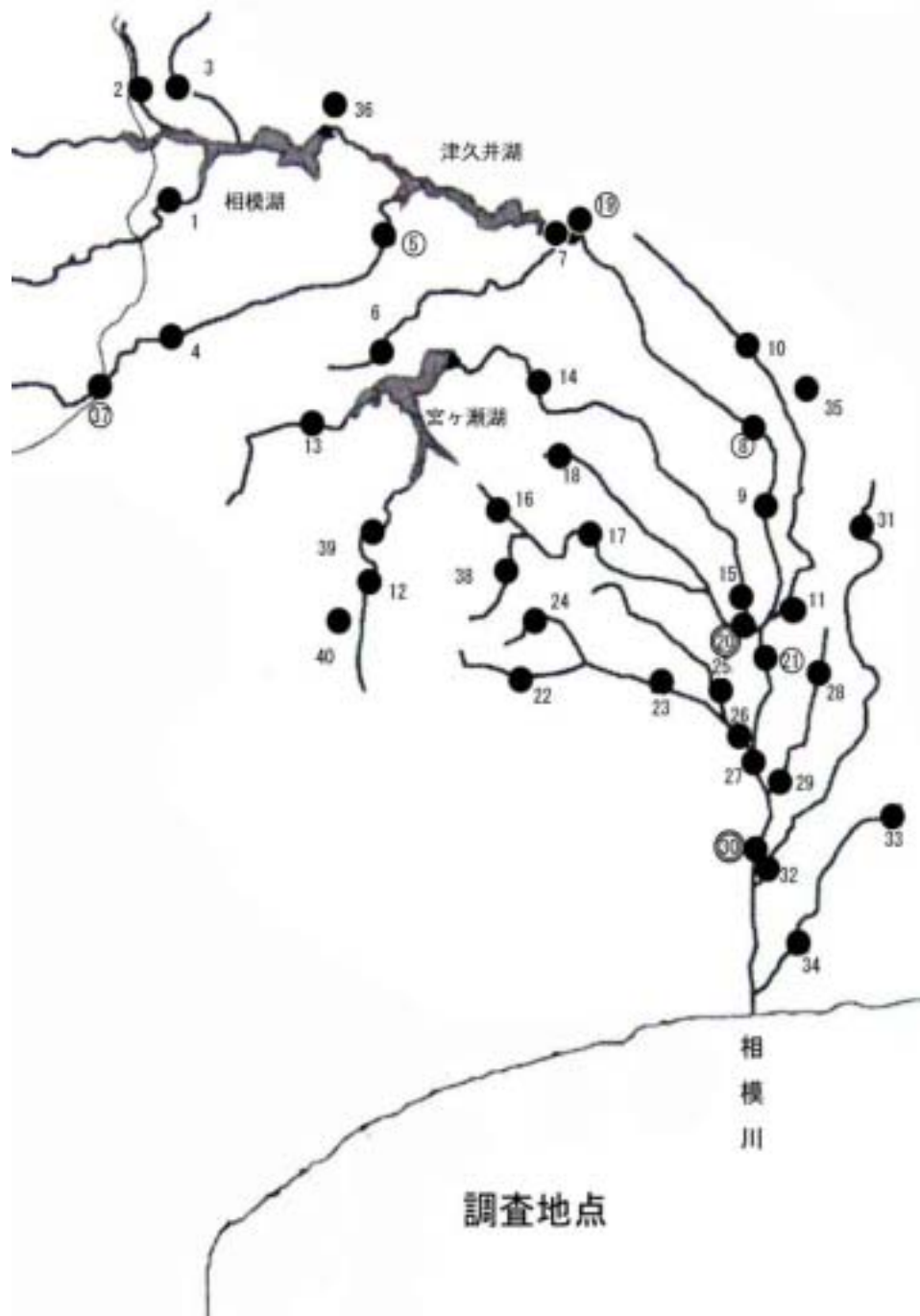
イ 調査内容

（ア）調査地点

相模川 40 地点(本川、支川、溪流を含む。)

酒匂川 40 地点(本川、支川、溪流を含む。)

	地点名
1	秋山川旧向
2	境川酒井橋
3	沢井川上沢井
4	道志川青根
5	道志川青山
6	道場
7	串川下流
8	昭和橋
9	座架依橋
10	鳩川今橋
11	馬船橋
12	札掛
13	早戸川(鶴岡)場(松茸山)
14	馬渡橋
15	金田橋
16	柿ノ木平
17	小島川
18	岩倉沢
19	小倉橋(串川合流点)
20	第2鮎津橋
21	相模大橋
22	日向薬師
23	新玉川下
24	大沢(広沢寺)
25	恩曾川下
26	酒井橋
27	戸沢橋
28	今里
29	世継橋
30	神川橋
31	上栗原橋
32	河原橋
33	大黒橋
34	新鶴峯橋
35	道保川
36	美女谷温泉
37	神ノ川
38	谷太郎川
39	布川・権現平キャン プ場
40	境沢



St.1-St.34：旧調査地点（平成 14-15 年度に底生動物の調査を実施した地点）

St.35-St.40：新調査地点

公共用水域水質測定計画調査地点：地点番号に丸印（二重丸：環境基準点）

(イ) 調査回数及び調査時期

動植物等の生息時期等を考慮し、年2回実施する。
水質項目については、年12回(毎月1回)分析する。

(ウ) 調査対象動植物等

調査対象	調査手法
水生生物(水質等の水環境評価に係る動植物) 底生動物、魚類、付着藻類、水生植物	分布調査 定量調査、 定性調査など
陸域の動植物等 (水生生物の生息等に深く関わる河川環境の評価に係る動植物) ・鳥類(カワガラス、ヤマセミ、カワセミ、セキレイ類、カワウなど 10種前後) ・ほ乳類(コウモリなど) ・抽水植物(ヨシ、ガマなど)	分布調査
生物の生息環境 ワンドや河床構造等の、生物の生息にとって良好な環境の存在を調査する。	分布調査

(エ) 調査対象水質項目

BOD、COD(化学的酸素要求量)、窒素、SS等の水質項目

(オ) 調査方法

調査は、動植物等の経年的な量的変化を把握するための定量調査と河川生態系の種類組成を明らかにするための定性調査及び水質の調査で構成し、大学、研究機関の専門機関などに委託し実施する。

ウ 調査結果の解析等

調査結果は、翌年度に過去からの動植物の生息状況等との比較解析を行う。このため、過去に実施された調査の結果について、平成19年度からデータベース化を行う。

河川等の水質については、公共用水域の水質調査結果と各地点の調査結果をもとに比較解析を行う。

エ 補完調査・全体のとりまとめ解析

相模川、酒匂川における各年度における調査を踏まえ、平成22年度に補完調査を行う。これらの調査結果をもとに、平成22年度に全体取りまとめ解析を行う。

オ スケジュール

取組内容		H19	H20	H21	H22	H23
相模川	・調査計画の策定					
	・過去の調査のデータベース化					
	・現地調査					
酒匂川	・とりまとめ解析					
	・調査計画の策定					
	・過去の調査のデータベース化					
全体	・現地調査					
	・とりまとめ解析					
	・補完調査					
全体	・全体とりまとめ解析					
	・次期5か年計画の検討					

(2) 河川水質の多様な指標による評価(県民参加型調査)

ア 基本的な考え方

調査は、水環境に係る多様な指標をもとに、県民参加により毎年度河川を調査する。

県民が実施した調査によって得られたデータを解析し評価するとともに、5年に1回実施する「河川の流域における動植物等調査」を補完するものとして活用する。

イ 調査内容

(ア) 調査地点

相模川 40 地点(本川、支川、溪流を含む。)

酒匂川 40 地点(本川、支川、溪流を含む。)

調査地点は、(1)の専門家による調査を補完するということから、同じ地点又はその中間地点や上流の地点とする。

(イ) 調査回数及び調査時期

動植物等の生息時期等を考慮し、年2回程度実施する。

(ウ) 調査対象動植物等

調査対象
水質調査 水温、透視度、COD
水生生物の生息調査(清水種、汚濁耐性種など水質等の水環境評価に係る動植物等) 底生動物、魚類、水生植物、外来動植物など ・ 底生動物(アメリカザリガニ、コモチカワツボ等) ・ 魚類(ブラックバス、アカミミガメ等) ・ 植物(オオカナダモ、コカナダモ、オオフサモ等)
河川環境・連続性調査 ・ ワンドや止水域等、生物の生息にとっての良好な環境の存在を調査する。 ・ 淡水エビ・カニ類、ハゼ科魚類等について、下流から上流域までの移動状況等について調査し、生物にとっての河川環境の良好度を調査する。

(エ) 調査方法

調査は、動植物等の生息量等の定性調査とし、具体的な調査方法は調査マニュアル(平成19年度策定予定)による。

ウ 県民参加について

県民から参加者を募って調査を実施するものとする。なお、調査に当たっては、調査の精度を確保するため、事前に研修等を実施するものとする。

なお、公募以外に市民団体等にも働きかけ、調査を実施するものとする。

エ 調査結果の取りまとめ及び結果報告会の開催

調査結果については、まとめ、結果報告会を開催する。

オ スケジュール

取組内容		H19	H20	H21	H22	H23
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・調査計画の策定 ・県民参加の仕組み作 ・調査マニュアルの作成 					
県民調査	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の実施 ・現地調査 ・とりまとめ解析 					

森林・林

蓄えるもの（土砂・有機物・栄養塩類）
河川に流出

多

少

堆積・富栄養

貧栄養

生物の生息環境（場・餌など）の提供

生物相の形成

水質・水量
（BOD,SS,N,P等）

生息環境
（ワンド,河床構造等）

生物（底生動物,
付着藻類,魚類等）

モニタリング

